

佑啓

ゆ う け い

発 行 者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

平成は走り続けた

里見 吉英

平成の時代が終わった。

佑啓会はまさしく平成そのものであった。準備委員会を立ち上げたのが平成元年。障害者の保護者・兄弟・雇用している社長・福祉に関係してきた元行政マン・不動産会社の役員・設計事務所の社長・そして高校時代席を並べた弁護士・公認会計士、元上司の古川先生、当時私とおつきあいで頂いた方々に準備委員として参画して頂いた。そして事務局を三股・長良・私の3人で担い、先祖から引き継いだ土地を処分し、それを建設に向けての資金とした。我々事務局は当時の県立施設で働きながらの二足のわらじであった。これだけのメンバーの参加を頂いたのだからオープンはその難しいことではないかと思っていた。しかし、それは大きな間違いであることに、後々いやと言うほど思い知らされた。

第108号
「甘かった」
福祉の世界で仕事をしていた私は世間からかけ離れていたことを思い知らされる連続に何度やめようと思ったか。元々痩せていた体はストレスと酒のせいで7kgも減り48kgまで落ちていた。施設整備のため借金をした国の外郭団体である社会福祉医療事業団の担当者から「氣をつけてくださいよ。よくオープンしたと同時に倒れる理事長さんが多いですから」と言



平成4年
法人認可 ふる里舎建設開始

われたが大袈裟でないことを身をもって知った。翌年ようやくオープンに漕ぎつけた。その2年前から計画を知ったあちこちの団体から声をかけられ説明会に呼ばれた。まだ30代だった私が会場に入ると、この若造がというような視線を浴びせられ「どんな施設になるのか」「対象者はどういう人か」「どうしたら入れるか」「お金が必要か」など矢継ぎ早に質問を受けた。当時は、入所施設に入るのにゴルフの会員権ぐらいの寄付を求められたという噂も、実際に払ったという人の話も聞いたことがあった。その負担がないこともあってか、60名定員に対して300名を超す希望者があった。とても面接しきれぬ数ではない。市町村に絞り込みを依頼し、100名程の面接をさせてもらった。緊急性の高さと理念を共有できる親御さんの子供さんを対象とし60名を決定した。

「甘かった」
福祉の世界で仕事をしていた私は世間からかけ離れていたことを思い知らされる連続に何度やめようと思ったか。元々痩せていた体はストレスと酒のせいで7kgも減り48kgまで落ちていた。施設整備のため借金をした国の外郭団体である社会福祉医療事業団の担当者から「氣をつけてくださいよ。よくオープンしたと同時に倒れる理事長さんが多いですから」と言

だ勢いの悪口雑言も今思うと若気の至りか。
平穏な日々を取り戻すと入所が叶わなかった人達の顔が浮かんだ。入所でなくても日中活動の場を作れば親御さんの負担は軽減できる。養護学校を卒業する人達の進路も考えねばならなかった。そのため通所部をつくり、短期入所も積極的に受け入れた。

措置の時代。経営と言う意識はあまりなかった。利用者と家族の支援を考え、ニーズがあるからそれに応えるだけ。それが仕事と考えていた。借金から始まった運営も職員が頑張ってくれたおかげで徐々に改善された。

平成半ばその状況は一変する。契約時代に突入、しかし支援費制度は1年にして崩壊、自立支援法の制定と不安定な状況の中で社会福祉法人も公を頼らず自立しろ、つまり株式会社のような営利企業と同様の経営を迫られ、コストパフォーマンスを求められる。

また一から出直し状態。その頃すでに当法人もある程度の規模になっていたのでも今までどおり運営できるのか、福祉、特にほとんど生まれながら障害と向き合ってきた人達を対象としているのに本当にこれでいいのかと思いつつ国の方針には逆らえないまま。
本人・家族・職員が振り回された時期が長く続き、社会福祉法人改革もまだ道の途上である。



26名で始まった施設運営も官から民への流れの中で、指定管理や運営委託の形で佑啓会が担う事業も多くなり、今では600名近くの職員を抱えることになった。

その子供達の成長を目にすると、利用者の生活だけでなく一緒に働いてくれた職員・家族の人生も考えなければならぬ。責任の文字もどんどん大きくなり、施設作りを考えた頃には、想像もしなかった状況に怖ささえ覚える。

4月1日辞令交付式で平成生まれの26名の新人職員が400人前まで若々しい挨拶をした。聞きながらこの期待に応えなければいけない。張りつめた緊張は落胆となり、長期にわたった準備は徒労に終わるのか複雑な心境であった。その後予定どおりの報に再度身を引き締め学舎に向かった。秒単位のスケジュールに1時間半の滞在はあつという間で無事終えることができた。

新しい天皇陛下の誕生にあの時このことを思い出す。

辞令交付式



理事長の講話中に新年号発表！

平成17年、皇太子殿下がふる里学舎へ行啓されることになった。半年前から行政の担当者や皇宮警察、県警と打合せを繰り返した。警備に支障があるところは全てきれいに整備しなければならぬが到底間に合わない。家族会に協力をお願いするにも行啓の準備は極秘裏に進められ、一切口外できない。環境整備の理由を言えないまま毎週土日に続けられた。竹藪と格闘するなんてこんな山の上まで来るのだろうかと思いついた。後で聞いた。本当のことが言えず心苦しい日々だった。



行啓当日、緊張に目覚めは早かった。突然県の担当者からの電話が鳴った。サウジアラビアの皇太子が亡くなったので殿下は学舎へはお見えにならないかもしれない。張りつめた緊張は落胆となり、長期にわたった準備は徒労に終わるのか複雑な心境であった。その後予定どおりの報に再度身を引き締め学舎に向かった。秒単位のスケジュールに1時間半の滞在はあつという間で無事終えることができた。

令和のニュースで陛下の顔を拝見する度になぜか親近感を覚えるのは不謹慎か。東宮御所にお礼にいくものだと思いついていきなり訪問し、後から本来、知事が赴き御礼の記帳をするものだと思えられたときは冷や汗ものだった。がそのおかげで普通ではあり得ない経験ができた。あの時の侍従さんには感謝しなければならぬ。

準備段階で30代だった私も今は60代半ば、それでも昔と変わらず先日若い職員と福島に花見に出かけた。三春の桜は見事であった。1000年の時を生きて来た滝桜の種から育てたという苗を買い求め市原・蔵波・和田浦に植えた。令和の時代に願いを込めて。

(佑啓会理事長)

手

大野 君子

「あなたの手は、どんな手で
すか？」
大きな手。柔らかな手、ガッシ
リな手。

その手は、「活きて」います
か？あなたの「その手」は、と
ても「素晴らしい」そのことに
気づいて下さい。(気づいて！)
手で触れて下さい、目の前の命
に、人に、そして、(忘れてしま
いがちな)その繊細さを(もう
一度改めて)手から感じて下さ
い。手ほど、伝わるものはない
ことに気がつきませんか？あな
たが触れるから、あなたがわか
るのです。だから、あなたにも
伝えるのです。きつと私たちの
子供たちは、その「伝わり」を
信じて伝え続けています。



また、いろいろな嬉しいは、
「はじめて」に出逢って、心が
踊った時や、何気ない日常(で
も私達にはとても大切な)時や、
偶然の優しさに触れた時など、
いつも「手」は、子供の温もり
を感じていました。その「温も

り」を、子供に関わる方全ての
方と共有できて、とても柔らか
な紡ぎになれと、切に願ってい
ます。
さて、何度か「手」といつて
きました。この「手」は、比
喩です。コミュニケーションで
のスキンシップ(触れる)を大
切にして欲しいとお伝えしたか
っただけなので、貴方なりの手
とを考えて下さい。



普段の何気ないコミュニケー
ションでは、「目」(で見る)や
「耳」(で聴く)が相手を感じる
受容となつていませんか？だか
らこそ「手」で(触れて)感じ
ること、あえて意識し続けて
いきませんか？とはいえこれ
は、難しいです。つい、補装具類
の触れない時が、多くなつてし
まいますよね。「補装具」つてど
んなモノですか？私は、随意的
な行動ができる方にとっては、
自らの行動を補つてくれる道具
だと思つています。しかし、重
心である私の娘にとっては、ど
うでしょう？娘にとって補うモ
ノというよりも、関わる人の負
担を補う(サボらせてくれる)
モノに感じてしまいませんか？
か、補装具(車椅子や座位保持
等の肢体を預けられる無機質な
道具)へ(長時間)任せること
に慣れないで下さい。
人と人が接して「慣れる」の
ニュアンスの1つで「お互いの
気持ちに馴染む」は、大事で

切にしたいことですが、「慣れる」
の「このままで」だったり、「い
つもの通り」のように、今を見
直さないマインドは、絶対にマ
イナスの結果しか招きません。
ぜひ、言葉の「安心感」で流さ
れないうで下さい。
これまで「手」と題して、徒
然に書いてきました。娘が現在
利用させて頂いている、ふる里
学舎の方でも「手」について
考えてみました。保護者の要望
に「手」を差し伸べることが、
重心事業「アネッサデイセンタ
ー」の礎であると先日知りまし
た。そのおかげで、娘はお世話
になるご縁ができました。さら
に、色々複雑な「手」続きな
ど、ご苦労がございました。あ
うことは想像も及びませんが、蔵
波で重心の受け入れ体制作りと
「手」を広げて、子供たちの居
場所作りにご尽力いただきまし

「新しい居場所」
私の娘は、蔵波で重心事業が
スタートをするのを機に、これ
までのアネッサから通所先を変
更しました。「きめ細やかな対応」
を目指された理念のもと、暖か
な雰囲気でも娘も穏やかに過ご
しているようです。ただ、ここ
であえて苦言を呈させていただ
きますが、「穏やか」や「緩やか」
は、時として「変わったこと」が
何も無い「こと」にされやすい。
英語では、「障がい」を持つ者を
「チャレンジド」と表します。
ぜひ、楽しい刺激に挑戦して、
みんなの笑顔が多い運営をお願
いします。せつかく地球で唯一、
笑える人間として産まれ、生き
ているのだから・・・みんな
それぞれの最高の笑顔を持つて
いるのだから・・・。
最後にいつも「手」を尽くし
て頂いている皆様へ、この言葉
を伝えさせて下さい。
『本当にありがとうございます
(ふる里学舎蔵波 保護者)』

夢

米窪 佳那子

日差しは暖かく、しかし吹く
風は冷たい平成30年の3月、私
は就職活動を行っていた。正直
に言うとなんか就職活動、仕事に
就ければいいな、なんて
考えていたのだ。なぜなら、私
には夢があった。学生時代ずつ
と続けてきた演劇を、社会人にな
っても続けること。演劇さえ
できれば、仕事なんかどうでも
いいなと思っていた。
そんな生意気な学生が、就職
中一番注目する事と言えば、や
はり「お給料」である。福利厚
生がしっかりとっている事、自由
に使えるお金が多ければ多いほ
どいい、そんな事ばかり考えて
いた。大学で学んでいた福祉に
興味があったため、手当たり次
第、福祉業界の合同説明会に参
加。噂通り、福祉の世界は給与
の面では厳しそうだと、他の業
界に浮気心が芽生えた時「佑啓
会」に出会った。「福祉なのに
福祉っぽくない」、それが第一
印象だった。

佑啓会単独説明会
TasukuFukushi 2019

100名を超える学生が集まりました。

今でも覚えている。合同説明
会の個別ブースで流されたムー
ビーに、多くのキラキラ輝く笑
顔が映っていたこと。仕事以外
の行事でも、職員が丸となった
て楽しんでる姿。そして決め

手は、採用担当の職員が言つて
いた「職員が楽しまなければ、
利用者を楽しませることは出来
ない」という言葉。これは、演
劇を作るにあたって私が大切に
していた「演者が楽しめる舞台
に立てば、観客も楽しめる最高
の舞台になる」という理念に、
通じるものがある気がした。初
めて、給与以外の面で心惹かれ
た企業だった。ここに就きたい
と強く思った。

念願かなって、私は今、社会
福祉法人佑啓会の一員として働
いている。働く前からわかって
いたつもりだったが、仕事とい
うのは、あのムービーのような
笑顔でいられることばかりでは
ない。利用者に叩かれることも
あれば、暴言を吐かれることも
ある。自分の作業を手一杯にな
り、利用者のことを見れなかつ
た日は、つい自分を責め立てて
しまった。農耕・クリーニング
科に配属されたことで、前より
掃除・洗濯といった家事が好き
になったのは、とてもいいこと
だろう。

ただ、それ以上に「佑啓会」
で仕事が出来て良かったと思え
る事がある。それは、全力で目
の前の事に取り組んでも恥ずか
しくないこと。どうも学生時代
から人一倍頑張つてしまう癖が
ある私は「どうしてそんなに頑
張るの？」と疑問に思われるこ
とが多かった。たとえそれが純
粋な疑問だったとしても、頑張
る事が当たり前な私は、まるで
自分の常識を否定された気持ち
になるのだ。そして、それを恥
ずかしくも思っていた。しかし
佑啓会には、私の頑張りや笑う
人はもちろん、疑問に思う人も
いない。なぜなら、ここでは皆
が全力だから。全力で取り組む
ことが当たり前からこころ、私
はのびのびと私らしく全力を尽
くすことができる。どんな姿で
あれ、その人の最大限の力を認
めてくれる、この環境に私は何
度も救われた。そして今なら、

一生懸命頑張る事は恥ずかし
くない事だと思える。これは、私
の中の大きな価値観の変化と
なり、この変化は私を大きく成
長させることだろう。このよう
な機会を与えて下さった「佑啓
会」に感謝すると共に、これか
らこの場所と、私なりの全力
を発揮していきたい。

新人職員歓迎会

鴨川グランドホテル前
同期で記念写真！！

今の私には新しい夢がある。
佑啓会というこの場所で、自分
がどれだけ成長できるか挑戦す
ることだ。演劇をやりたい、と
いう夢が消えたわけではない。
しかし、この挑戦を目の前にし
て、とてもわくわくしている自
分がいる。佑啓会で全力を尽く
せる毎日が、何よりも充実して
いるのだ。だからしばらくの間
もう一つの夢は見るだけにし
ておこうと思う。

(ふる里学舎 支援員)
編集後記

元号が「令和」となり、早二
か月。お祝いムードの裏で動
き出した機関紙メンバー。今
回はメンバー全員が機関紙に
携わるのが初めてで、予定通
りに進むかヒヤヒヤしながら
もベテラン勢の助力をもらい、
何とか皆様の元へお届けする
に至りました。安堵と嬉しさ
を覚えるとともに、多くの方
のお力添えがあることで発行
できていることを実感してい
ます。一年間、役割を全うする
決意を胸に「令和」最初の佑啓
会をお届け致します。
(支援員 五十嵐祐貴)